

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告

平成 24 年 9 月 30 日

派遣生の基本情報

氏名： 鈴木里香

所属先： 人文社会系研究科ドイツ語ドイツ文学研究室

派遣形態： 平成 23 年度夏個人派遣 (PD・助教)

研究課題名

チェコ民族運動の中のプラハ・ドイツ語文学

派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

国名：ドイツ

都市名： ミュンヘン、マールバッハ

研究機関名：1. ルートヴィヒ・マキシミリアン大学 (ミュンヘン大学) 文学部図書館 (ドイツ文学・比較文学科)
2. バイエルン州立図書館 (ミュンヘン)
3. マールバッハ文学資料館

(2) 派遣期間

2012 年 2 月 1 日～2012 年 4 月 1 日 (61 日)

主な研究成果

(1) 当初の計画の概要

ハプスブルク帝国の崩壊と共にチェコ人の民族意識が一層高まりゆく中で、プラハという一都市の内部で共存するドイツ語文学とチェコ語文学がいかなる影響関係を築いていたのか、また、「支配者の言語によるマイノリティーの文学」と「被支配者の言語によるマジョリティーの文学」、双方の言語・担い手・受容者の関係が、どのような問題を孕み、そして文学の中にどのように表れていたのか、文献資料の収集をすすめつつ、考察する。

(2) 実際に達成された成果

今回の渡航で収集した資料により、まずはプラハ・ドイツ語文学とチェコ語文学との間で、目的の違いや温度差があったにせよ、相互的に翻訳が行われていたことが確認された。さらに、一都市プラハの中で異なる言語圏・文化圏に属する両者の関係が、一方では言語的・民族的・社会的な対立を孕みつつ、他方ではプラハというトポスを共有する、互いに表裏をなすものであったことが明らかになってきた。その過程で新たに出てきたのが、>Vermittler< (仲介者)という概念である。この言葉は、20世紀チェコ文学史・文化史のコンテクストにおいては、チェコ語文学・文化のドイツ語翻訳に尽力したマックス・ブロートに対してしばしば用いられているが、そうした異言語・異文化間の橋渡しをする者の意味にとどまらず、より抽象的で広義に捉えることで、文学的な概念として用いることができるようになった。

(3) 今後の研究展望

チェコ文化の積極的な紹介者であり、チェコ共和国の成立と並行して共和国中枢部での政治活動とシオニズムに傾倒していくブロートとは対照的に、文学の中にのみ自己の居場所を見出したカフカにおいては、作品にたびたび登場する>Vermittler<は、‘無為’をその特性としている。こうした差異を含め、まずはこの>Vermittler<をプラハ・ドイツ語文学を読み解くキーワードのひとつと捉え、ブロートやカフカといった「プラハ・サークル」の作家たちの個々の文学作品をてがかりに、チェコ民族運動期のプラハ・チェコ語文学とプラハ・ドイツ語文学の関係性についてさらに考察を進めていきたい。